予習シリーズ 4年㊦第10回

四年国語（その一）

（2019・11・9）

組分けテスト

※ 問題用紙は（その一）から（その六）までありますから、注意してください。
※ 答えは、別紙の解答らんに書き入れなさい。
※ 字数指定のある問いは、「、」や「。」も一字として数えます。

1 ⟨10⟩ 次の――線部を漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなはひらがなで書きなさい。

1 クラス全員で大ナワ跳びをする。
2 ココロヨイ風が吹く。
3 先生のシジに従って行動する。
4 高いココロザシを持つ。
5 インガ関係をはっきりさせる。
6 後はすべて君にマカセルよ。
7 合格するジョウケンを満たす。
8 住所をトウロクする。
9 人生のキロに立つ。
10 別のカンテンから考える。

2 ⟨26⟩ 次の各問いに答えなさい。

問一 ⟨8⟩ 次の文は、A＝何が―どうする、B＝何が―どんなだ、C＝何が―なんだ、のどの文型になりますか。それぞれ記号で答えなさい。

1 わたしの得意な教科は国語です。
2 ぼくは最後まであきらめないぞ。
3 お祭りの会場はさぞにぎやかだろう。
4 ハワイの海は青く美しかった。

問二 ⟨10⟩ 次の各文の□にあてはまる音を、それぞれひらがな一字で答えなさい。

1 静か①夜の街には、人の姿がどこにもな②ので、おそろし③感じた。
2 いそ①ばまにあうはずだから、走って行②う。

問三 ⟨8⟩ 次の□にあてはまる言葉をそれぞれ漢字一字で答えて、慣用表現を完成させなさい。

1 動かぬ証拠を見せられて、ついに犯人が□を割る。
2 これくらいの練習で□をあげるとは情けない。
3 大勢の中から、彼に白羽の□が立った。
4 四谷くんは□が置けない人だから、なんでも話せる。

3 ⟨56⟩ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

クラス一のやんちゃ坊主の誠は、誠の強いまなざしを平気で見返す転校生の「せっちゃん」を一目で気に入った。誠は、「せっちゃん」が教会の聖歌隊のテストを受けに行くのについていき、いっしょに入ることに決めた。

それからずっと、誠は聖歌隊のれんしゅうをさぼったことがない。日曜のおまいり（と誠はおぼえていた）も、かかしたことがない。そのとき、せっちゃんの横でうたえるからだが、もちろん、そんな気もちはせっちゃんにいったことはない。①いつもぶすっとしていて、おまえにだまされてつれてこられ、だまされてこうしてうたわせられてるんだ――といった顔でいる。A せっちゃんも、そんな誠の気もちに気づくわけもなく、それこそ、

でてこい、未来のリーダーたち。
四谷大塚

四年国語（組分け）（その二）

（20−9・11・9）

（ナニカモンクアルノ？）

といった気もちで誠のことをちらと見てやるだけだ。ただ（②だんだんわかってきたのだが、クラス一のやんちゃの）誠が、聖歌隊のれんしゅうと日曜の礼拝をやすまないことだけは、かんしんしていた。ただ③それが、じぶんのせいだとは気づかなかっただけだ。誠は、じぶんが聖歌隊にはいったことも、日曜に教会へでかけること、そこでうたうことも、やんちゃ仲間にはかくしていた。それは、ほんとは、せっちゃんのせいでそうしていることをかくしたかったことになるのだが、仲間のカンはよかったから、そのどちらかがばれたら、おおごとになる。誠はクラスのやんちゃボスの※メンツをつぶすことになるからだ……。十二月まで、誠はうまくかくしてのけた。仲間のだれひとりとして、誠が教会で、

―わがゆくみちに花さきかおりィ……。

などといい声をはりあげているとは思ってもみなかった。[B]十二月の④クリスマスイヴがこまるのだ。キャンドル・サービスといって、大きなローソクにあかりをともしたのをささげもち、町の目ぬきどおりをあるくことになっているのだ。

誠は頭をかかえた。かぜをひくことにした。声がでなくなればやすめる。かあさんがやかましくいうハラマキをしないでねてやると――、ねぞうのわるい誠は、てきめん、みごとにかぜをひいてしまった。教会とキャンドル・サービスどころか、学校もやすめるし、うまく長びけば終業式もやすめて、あのいやな通知ぼをもらうとき、先生にいやなことを言われずにすむ……。ただし、誠は、せっちゃんの顔を見られないのをこっそりくやしがりながら、じぶんのへやのふとんにもぐりこんで、何日かすごした。むろん、薬なんかのんでやらなかったから、熱はひどくなった。熱のせいで目がうるんで、なみだがこぼれるのがいやで、目をぎゅっととじてやった。すると、そのむこうにせっちゃんの顔がぼんやりとうるんで見えた。

（⑤ふん、こんなめにあうのも、あいつのせいだぞ……）

誠は、せっちゃんといっしょにうたえないのがくやしくて、⑥心のなかでどくづいた。

―まことくうん……。

ききなれた声がよび、誠はぼんやり目をひらいた。

―クリスマス・プレゼント。

せっちゃんがみまいにきてくれた。オルガンのおねえさんもいっしょだったので、誠は、ふくれてふとんをかぶって返事してやらなかった。ふたりがかえってから、いそいでつつみをひらくと、――あまい海いろの首まきがはいっていた。小さなカードがそえてあり、（カゼヲハヤクナオシテマタイッショニウタイマショ）と、きれいな文字で書いてあった。

⑦キャンドル・サービスの行列を、誠は電柱のかげからそっと見ていた。ハラマキの上にセーターを着こみ、あの首まきをしっかりと目の下までまきつけて――まるでふとっちょのクマになって見ていた。⑧来年のきょうは仲間の前を、せっちゃんとならんであるいてやるぞ……とじぶんにいいきかせながら、クマは大きなくしゃみをたてつづけにしていた……。

（今江祥智「首まきグマ」より）

※メンツをつぶす…評価を下げる

問一⑧ [A]・[B]にあてはまる言葉をそれぞれ下から選び、記号で答えなさい。

[A]…ア だから　イ つまり　ウ さて

[B]…エ ところが　オ そして　カ しかも

問二④ ――線①「いつもぶすっとしていて」とありますが、誠はなぜぶすっとしているのですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア せっちゃんにだまされて聖歌隊につれてこられたので不機嫌だから。

イ 休まず聖歌隊の練習に参加しているのに、だれもほめてくれないから。

ウ せっちゃんの横で歌えてうれしい気持ちを気づかれたくないから。

エ せっちゃんが誠の気持ちに少しも気づいてくれないから。

でてこい、未来のリーダーたち。
四谷大塚

問三④　――線②「だんだんわかってきた」とありますが、どんなことがわかってきたのですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　誠が聖歌隊の練習と日曜の礼拝をやすまないこと。
イ　誠がクラス一のやんちゃであること。
ウ　せっちゃんが誠に感心していること。
エ　誠が聖歌隊にはいったことを仲間にかくしていること。

問四⑧　――線③「それが、じぶんのせいだ」とありますが、具体的にはどういうことですか。次のように説明するとき、空欄にあてはまる言葉を指定された字数でさがし、はじめと終わりの三字をそれぞれぬき出して答えなさい。

・誠が［　一　二十一字　］のは、［　2　十二字　］からだということ。

問五⑩　――線④「クリスマスイヴがこまるのだ」とありますが、なぜですか。「キャンドル・サービスで町をあるくと」に続くように、四十五字以内で答えなさい。

・キャンドル・サービスで町をあるくと［　四十五字以内　］

問六④　〰線「てきめん」（19行め）を正しく使った文を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　父の料理は、だれもがみとめる［てきめん］のおいしさだ。
イ　今回のテストは［てきめん］に難しいとみんな言っていた。
ウ　練習をさぼると、［てきめん］に体の動きが鈍くなる。
エ　宝くじが［てきめん］に当たってほしい。

問七④　――線⑤「ふん、こんなめにあうのも、あいつのせいだぞ」とありますが、「あいつ」とはだれのことですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　仲間たち　イ　かあさん　ウ　先生　エ　せっちゃん

問八⑤　――線⑥「心のなかでどくづいた」とありますが、このときの誠の気持ちを次のように説明するとき、空欄にあてはまる言葉として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

・わざとかぜをひきひどい熱が出てしまったのは自分が悪いのに、せっちゃんのせいだと［　　］している。

ア　八つ当たり　イ　嫌がらせ　ウ　逆恨み　エ　勘違い

問九④　――線⑦「キャンドル・サービスの行列を、誠は電柱のかげからそっと見ていた」とありますが、このときの誠は何にたとえられていますか。文章中から八字でさがし、ぬき出して答えなさい。

問十⑤　――線⑧「来年のきょうは仲間の前を、せっちゃんとならんであるいてやるぞ」という言葉から、誠のどんな決意がわかりますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　来年は絶対にかぜをひかないように気をつけよう。
イ　せっちゃんと聖歌隊で歌っていることを仲間にかくすのはもうやめよう。
ウ　仲間に、せっちゃんと仲がいいことを見せつけてやろう
エ　これからは二度と学校をずる休みしたりしないようにしよう。

4　58　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

夏休みのある日、野枝は同じ団地に住むおばあさんから、同じ年のひかりと友達になってほしいと頼まれる。

ふたりきりになって、野枝は急に心配になった。ひかりちゃん、①わたしと遊んで、楽しくなかったらどうしよう？

けれどひかりは、さっと野枝の手をつかんで言った。

「行こう！」

でてこい、未来のリーダーたち。
四谷大塚

「ど、どこへ？」
「あっち！　さっき猫見たんだ」
そう言って日ざしのなかへかけだした。
こいピンク色のぼうしが、野枝の前をはずむように走っていく。②まるで花か蝶が飛んでるみたいだ。ひかりはすでにこの団地を見てまわっていたらしく、迷わず敷地のはしのゴミ捨て場に向かっていた。行く道々、その口はいそがしくしゃべりつづけている。
「ここの団地、ほんとにかしの木だらけだね。一号棟、二号棟、三号棟！　ぜんぶ五階建てだ。四階だと縁起が悪いからって、ほんとかな。階段が十三段のとこはやめたほうがいいんだって。あたしの住んでるのは、『クレール泉台』ってマンションで、十階建て。階段は十四段だったよ。一階は不動産屋さんなの。でもコンビニならよかったなあ」
「そう」
「あっ、ごみ袋の色ちがう。うちのとこ、緑じゃない」
「そうなの。ひ――」
ひかりちゃんのところは何色？　野枝がそう聞くより先に、「あそこ！　あそこにいたんだよ」と前を指さしかけよっていく。ほんとうに、蝶みたいだ。野枝もいっしょうけんめいあとをついていく。
やがてごみ置き場の日かげになったところに、大きな黒白猫がどでんとのびているのを見つけた。寝そべったまま、ちらりと野枝たちを見る。
「ああ、ボスだったの」
「ボス？　この子、ボスっていうの？」
「うん。このへんに住んでるの」
ボスは野良で、なかなか人になつかない。野枝には一度だけなでさせてくれたことがあったけれど、それは[A]煮干しを持っていたときだ。ひかりが手をのばしてさわろうとすると、ボスはのっそり起き上がって植えこみのむこうへ行ってしまった。
「行っちゃった」あーあ、とひかりが口をとがらす。
「ご、ごめんね」
「なんで野枝ちゃんがあやまるの？」
ひかりは笑って、すぐにべつの場所に目を向けた。
「うわ、アリ！　でかっ、アリ、でかっ！」
[B]③どきどきした。かけよってのぞきこんでいる。このへんにはびっくりするくらい大きなアリがいる。あんまり大きいので、以前、クラスの子にひどく気味悪がられてしまった。ひかりも、アリがきらいだったらどうしよう。
「すごいね、このアリ！　黒くてでかくて、最強じゃん」
ふりむいた目がうれしそうに輝いている。ほっとした。野枝はアリをながめるの、けっこう好きだ。ずっと行列を見ていてもあきない。けれど四年生にもなると、あまりそういうことをする子はいない。まえにきゃあきゃあこわがったリサちゃんも、最近は好きなアイドルのふりつけをまねするのに夢中だ。その速いリズムに、野枝はとてもついていけない。
「ねえ、ツツジとサツキの見わけかた知ってる？」
とつぜんひかりがたずねてきた。さっきボスの消えていった植えこみをのぞきこんでいる。
「……ええと、葉っぱ？」
大きくてさわるとベタベタするほうがツツジ、小さくてツルツルなほうがサツキ。
「なあんだ、知ってたのー」
大げさに残念がるので、また言ってしまった。
「ごめん」
「だから、④なんであやまるのさ」
ひかりは八重歯を見せてけらけらと笑った。
野枝はそこでようやく気づく。ああ、そうか。じぶんはきっと、この新しい友だちに好きになってほしいと思っている。この団地のことも、野枝自身のことも。
ひかりは葉っぱを一枚、ぷつんとちぎりとると、さっきのアリをその葉にのせた。アリはすぐにぴょいと逃げていった。
「あれー？　くっつかない。⑤おかしいなあ」
ちぎった葉をじぶんのシャツにぺたりとはりつけ、「やっぱりツツジじゃん」と口をとがらす。
⑥野枝がくすくす笑うと、ひかりも笑った。ひかりのかぶっているぼうしは、ツツジの色に似ている。あざやかなピンク色。と、ひかりが[C]しんみょうな顔になって言った。
「ねえ。あたしさ、しゃべりすぎかな？」
「ううん」野枝はびっくりした。「ぜんぜん」
「ほんとに？」
「うん」
「つかれない？」

四年国語（組分け）（その五）

（2019・11・9）

「⑦うん、楽しい」
「そっか」
ひかりは、ほっとしたように言った。野枝も思いきってたずねる。
「……あの、ひかりちゃんは、つまんなくない？わたし、あんまり、おしゃべり得意じゃなくて」
「まさかあ。ぜんぜん。あたしは、すごいうれしい。野枝ちゃんがいて」
その言葉に、うれしくてほおが熱くなった。
「よかった。いつも、おとなしすぎって言われるから」
野枝ちゃんはしずかだね、とよく言われる。べつに話すのがきらいなわけじゃない。ただ、ぴったりな言葉を取り出すのに、人よりちょっと時間がかかるのだと思う。
「逆だ、あたしと。あたしはすぐ口から出ちゃう。ジャーッと、シャワーみたいに」
しぐさと言いかたがおかしくて笑ってしまった。野枝はじぶんもツツジの葉っぱをちぎってシャツの胸に貼りつけた。おそろいのシールみたいだ。
（市川朔久子「しずかな魔女」〈岩崎書店〉より）

問一⑥ [A]〜[C]にあてはまる言葉を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア　ふと　　イ　とうとう　　ウ　さっそく　　エ　たまたま

問二⑥ ――線①「わたしと遊んで、楽しくなかったらどうしよう？」とありますが、
ー　野枝は、なぜ心配になったのですか。次の空欄にあてはまる言葉を六字でさがし、ぬき出して答えなさい。
・野枝はみんなから[六字]だと言われているから。
2　一方ひかりも、野枝とはちがう理由で――線①のように心配になります。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる言葉を文章中から六字でさがし、ぬき出して答えなさい。
・ひかりは自分で[六字]ではないかと思ったから。

問三⑥ ――線②「まるで花か蝶が飛んでるみたい」とありますが、これは何の様子をあらわしていますか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる言葉を指定された字数でさがし、はじめの四字をそれぞれぬき出して答えなさい。
・[ー　十字]をかぶったひかりが、[2　十一字]様子。

問四⑫ ――線③「どきどきした」とありますが、このあと野枝の気持ちはどう変化しましたか。次のように説明するとき、[ー]・[3]はあてはまる言葉を指定された字数でさがしぬき出して、[2]・[4]には漢字二字の言葉を自分で考え、それぞれ答えなさい。
・ひかりが[ー　六字]だったらどうしようと[2]だったが、輝く目で[3　六字]大きなアリを見ているひかりの様子からそうではないことがわかり、[4]した。

問五⑪ ――線④「なんであやまるのさ」とありますが、
ー　このときのひかりの気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア　なんでもあやまる野枝に、もっと自信を持ってほしいとはげましている。
イ　とりあえずあやまってその場をごまかそうとする野枝を責めている。
ウ　野枝がなぜ、何にでも「ごめん」とあやまるのか、どうしても本当の理由を知りたい。
エ　あやまる必要もないことなのに、野枝がいちいちあやまるのが不思議でたまらない。
2　ひかりにこう言われたことで、野枝はどんなことに気づきましたか。文章中の言葉を使って五十字以内で答えなさい。

でてこい、未来のリーダーたち。
四谷大塚

問六③　――線⑤「おかしいなあ」とありますが、ひかりは何を不思議がっているのですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　ツツジの葉だと思った葉にアリがくっつかなかったこと。
イ　サツキの葉だと思った葉にアリがくっつかなかったこと。
ウ　ツツジの葉をサツキの葉とまちがえたこと。
エ　ちぎった葉が自分のシャツにくっつかなかったこと。

問七③　――線⑥「野枝がくすくす笑う」とありますが、このときの野枝の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　どうでもいいことにむきになっているひかりを、心の中で軽蔑している。
イ　小さな子供のように生き物や草花と夢中でふれあっているひかりに、好感を抱いている。
ウ　わかるはずのないことを一人でいつまでも考えているひかりに、あきれている。
エ　あまりにも子供っぽすぎるひかりのしぐさが、おかしくてたまらない。

問八③　――線⑦「ううん、楽しい」とありますが、野枝がひかりといると本当に楽しく、ひかりを大切な友だちだと思っていることがわかる野枝の動作を表す一文を――線⑦より後からさがし、はじめの五字をぬき出して答えなさい。

問九⑧　この場面から、ひかりと野枝はどのような性格だと考えられますか。最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　気が弱いが、だれにでも親切でやさしい性格。
イ　マイペースで好奇心が強く、明るく行動的な性格。
ウ　遠慮がちだが、気持ちが細やかで、じっくり考える性格。
エ　自由気ままで、なんでも自分のペースでやりたい強引な性格。
オ　だれに対しても自分の気持ちを素直に表せない内気な性格。